

幸せに生きること、それはみんなの願いです

同和問題に
正しい理解と認識を



隣保館は、あらゆる差別の解消と「福祉と人権のまちづくり」や「コミュニティー活動」の場として、また、「生活自立支援」や「人権情報発信基地」として誰もが利用できるふれあいの場です。

隣保館ってどんなところ？

コミュニティーづくりの場として利用してみませんか

こんなときは、お近くの隣保館へ

育児や子育て介護など、生活上で悩んだとき

身のまわりの人権について勉強したいとき
地域の歴史を勉強したいとき

地域の役に立つ活動をしたかったとき
交流活動を通じて出会いと生きがいを見つめたいとき
仕事探し・仕事の相談をしたいとき

生花や料理教室などの教室に通いたいとき

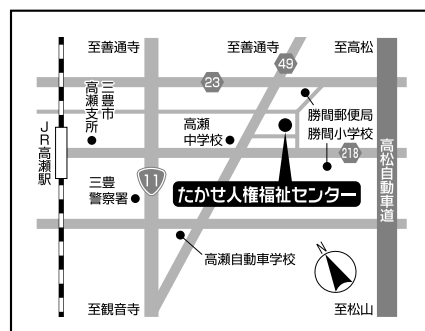
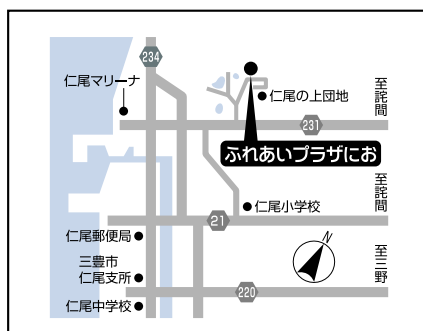
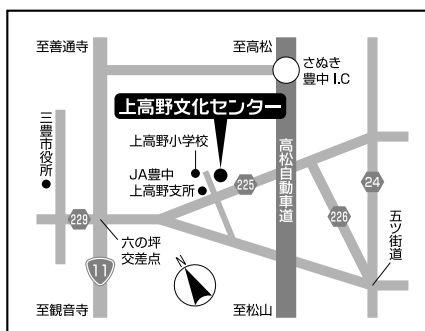


三豊市内には、3つの隣保館があります

上高野文化センター ☎ 62-2377

ふれあいプラザにお ☎ 82-2607

たかせ人権福祉センター ☎ 72-2501



問い合わせ 人権課 62-1121

三豊市国際交流協会から **大 家 好**

ダー ジャー ハオ

(皆さんこんにちは)

今月は、中国出身の国際交流員 **呉 衛**さんです。

中国の西安から参りました、呉衛と申します。

今年の5月から三豊市国際交流協会に勤めています。どうぞよろしくお願ひします。

私の出身地である西安は昔「長安」と呼ばれており、中国歴史において13の王朝の都で、都としての歴史は1,100年以上あります。4,000年前の文献に西安のことが記録されています。1,300年前の唐の時代、長安は都として大きく発展しました。町には「内郭」と「外郭」二重の城壁があり、国内貿易と国際貿易がより便利になるよう「東市」と「西市」まで設けられました。

当時、長安の人口は100万人にも達していました。その中には日本人の姿も少なくありません。日本人というのは遣唐使としてやってきた留学生と学問僧の人達です。中には皆さんご存じの香川県出身の傑出する学問僧 弘法大師がいました。

中国地図を開いて、西安を探してみましょう。皆さんすぐに見つけられると思いますよ！西安は中国の中央にあります。中国標準時間、いわゆる「北京時間」というのは、実は西安を基準にして作ったものです。

西安は古都でもあり、近代化の都市でもあり、今後ますます発展していくと思いますが、皆さんその変わっていくさまをぜひその目でご覧いただきたいと思います。



西安は、中国の歴史、文化、政治の中心地であり、古くから多くの王朝の都として栄え、多くの歴史的名勝地を有しています。また、交通の要路として、多くの国際貿易の中心地としても知られています。西安は、中国の歴史と文化を学ぶのに最適な場所であり、多くの観光客や留学生が訪れる人気の都市です。

(財)三豊市国際交流協会 ☎72-1192
<http://www.main.or.jp/mitoyo/>

シリーズ
No.13

なんなん？ 食育

学校では、給食を中心に食育が行なわれます。

「知識を深める」「実際に体験する」「日常で習慣づける」の3つの要素が一体となることによって、子どもたちに望ましい食習慣が身につきます。

高瀬町学校給食センター

今年度、高瀬町学校給食センターでは、毎月19日の「食育の日」に『ふるさと給食』を実施する予定にしています。5月の『ふるさと給食』では、海の幸の瀬戸内海でとれたさごしとちりめん、山の幸の高瀬町でとれたきゅうりやキャベツ、生しいたけ、そして香川県産のプチトマトを食材に使用しました。

6月は、瀬戸内海でとれた今が旬の「きすの青じそあげ」、高瀬町産のお茶を使った「お茶のムース」がメインの献立でした。子どもたちからは「毎日が『ふるさと給食』みたいだから、いつもの給食と変わらない」とうれしい感想が聞こえました。

当センターでは、年間を通して高瀬町でとれた旬の野菜や果物を産直市場から購入しています。野菜は大根や白菜、ほうれんそう、ブロッコリー、ねぎなど、果物は7月は桃、9月にはニューピオーネ、10月からはみかん、1月からはキウイフルーツやいちごなどをです。地場の食材を通じて、「食を大切に作る心」、「伝統ある食文化」を学んでほしいと願っています。

初めての「ふるさと給食」の紹介

